

令和8年度第2回「阪南2区人工干潟から始めるSDGs活動」干潟観察会の概要

- 日 時 令和8年7月26日(日) 10:00~14:00
- 場 所 阪南2区人工干潟(岸和田市)
- 主 催 CIFER・コア、共和海建グループ、きしわだ自然資料館
- 協 力 (公財)大阪府都市整備推進センター、堺泉北埠頭(株)、阪南2区連絡協議会、
全国豊かな海づくり大会推進グループ
- 参加者数 137名 (CIFER・コア 45名 (うち子ども7名)、共和海建グループ 25名、
岸和田市 55名 (うち子ども20名)、阪南2区連絡協議会 12名)
- 行 程 10:00 開会、挨拶
10:10 出航
10:30 講師紹介、注意事項、生物の最終方法の説明
干潟生物の採取、護岸清掃 (共和海建グループ)
12:10 干潟出発
12:30 帰港、昼食
13:30 採取した生き物の観察・種の同定作業
14:30 解散

○活動内容

今年度2回目となる阪南2区人工干潟の生き物観察会を開催しました。当日はやや風があったものの、日差しが強く暑い中での開催となりました。CIFER・コアからは45名が参加。うち東洋建設(株)から29名の方がおそろいのポロシャツで参加されたほか、国土交通省近畿地方整備局大阪港湾・空港整備事務所の下田所長も参加し、にぎやかなイベントとなりました。

観察会では、10数匹でハサミをふるハクセンシオマネキの「ウェーピング」が確認されました。また、人気のマテガイ獲りでは、暑さでマテガイが砂深く潜り捕獲が難航したため、資料館用意のジョレンやクワを活用して捕獲が行われました。

干潟では、共和海建グループによるテント設営、氷・塩タブレットの提供などの熱中症対策のほか、危険地域への侵入防止ロープ設置や監視員の配置といった安全管理が徹底されました。さらに、全国豊かな海づくり大会推進グループからのタオル、阪南2区連絡協議会からの水と観察ノートの提供など、各団体の協力のもと運営されました。

また、漁港のセリ場会場には種の同定作業や学芸員の先生方の解説コーナー、タッチプールが設けられ、漁師さんが獲った魚の展示などに子どもたちが興味深そうに見入っていました。地域の自然観察と多様な主体による安全・運営支援が一体となった、充実した環境学習の場となりました。





参加者 集合写真



学芸員の先生から採取方法などの説明



干潟生物の採取



マテガイ獲り 巣穴に塩をかけて出てきたところを捕獲



ハクセンシオマネキ



採取生物の種類の同定作業



専門家から詳しい解説を
聞くこともできる



近隣の海で獲れた魚の
タッチプール